

なのはな

NPO法人 なのはな
◇あおぞらキナーダーガーデン
◇まほろば
◇わとと・あおぞら
〒420-0961 静岡市葵区北226-1
TEL/FAX 054-246-2213
E-Mail : aozora@shizuoka.tnc.ne.jp
npo-mahoroba@uv.tnc.ne.jp
URL : <http://www4.tokai.or.jp/nanohana/>

寒さを乗り越える心

るんるんぐみのAくんが細い葉っぱを拾って、ずーと握っていたのですがその葉っぱを「はい！」とプレゼントしてくれました。ありがとうね。

そこで「おばけですー」と顔の前に揺らすと嬉しそうに逃げるAくん。

それをじーと見ているUくんとほしぐみのKくんの顔は「僕もやって」の表情。

そこで3人のお顔に「おばけー」とやると大喜び。しばし、おばけを楽しみ、遊ばせてもらいました。

1本の葉っぱでたくさん笑いの声が生まれるなんて、本当に子どもたちは、素敵ですね。

たいようぐみの子ども達が陶芸に行くバスの中での事。

何故？陶芸に行くのかと質問すると「よく動く手や強い足になったからお招きを受けた」と話してくれたのです。かわいいですね。

そこからたいよう {5歳児} さんは、どんなに力を持っているのかを教えてくださいました。お箸を使える・縄跳びができる・チククチク {針} できる・竹馬のれる・探検できる、怖くても行く等等自信満々です。

あんまり、たいようさんがかっこいいところをいっぱい言ったので「鬼がもう少しで来る時じゃあないのかな・・・」なんて言っても。勢いもあって「たたかう」モード。

そして、しばし「たしか鬼吉、鬼ポン太だった」「3人も来た」と鬼論議が始まりました。そんな中「こわい」の声。

「うんうん。そうだね。当然」なんて思っていると「それじゃあ家にきちやうよ」と他のお友達の声が聞こえ。

しばらくすると「じゃあたたかうよ」の声が聞こえてきました。このちょっと考えて話すこと素敵ですね。自分の心に相手の言葉を取り入れるからこそその姿ですね。

どうやら今年もあおぞらでは「鬼退治をして、春の訪れがくる」ようでほっとしています。よかったですね。

1本の葉っぱがお化けになる心も鬼を退治する心も子どもの見えない世界を楽しむ子どもの心です。

暖房・厚着・使い捨てカイロもいいですが、大人もこうした子ども心を楽しみ、心を暖めて厳しい寒さを乗り越えるのもいいですね。

(おか)

あおぞらだより

子どもたちは、体と心で冬の寒さ、冷たさを感じながら、毎日おさんぽを楽しんでいます。
そんな中、たいようぐみ（5歳児）と、ほしぐみ（2歳児）・るんるんぐみ（1歳児）が、一緒に出かけました。

小さい子の目の高さになって 名前を呼んだり 抱っこしたり 時には自分のペースで 歩いたり 走りだしてしまったり 小さい子が転んでしまうこともあります。

ねんごろにかわいがる姿はほのぼのとして とても微笑ましく感じられます。小さい子もとても嬉しく喜んでいます。

そして、（小さい子は嬉しくてキャーッと騒いだけなのですか）“大きな声だったから”と帰りにはいっしょに手をつなぎたくなくなったり、他のお友だちが遊具で遊ぼうとしたりすると“ダメよー”と通せんぼしてしまう姿を なだめたりするたいようさんです。

“ほしさんは こうしてお家でも パパやママにわがママをいっているんだね”

“Aちゃんはふつうにしてるけど声が大きいんだね”

など、経験の中で相手の違いがわかり、自分をくぐって 自分の言葉で表現するたいようさん。とてもすてきでした。

自分を見つめ、自己コントロールする力を育てていますね。

すごいですね。 いつもありがとう。

（イナバ）

まほろばの部屋から

「なんで？」攻略法

「さっきとちがう！」「どこいくの？」

道順が気になるので、帰り道と行く道が違うとどうも納得いかないよう。

「お買い物に行くからさ、さっきと違う道にいきます」

と説明すると、

「なんで？」キタキタ。

「お野菜ないと、ごはんつくれないんだよー」

「なんで？」

「ア！ゴミ収集車みつけた。」

「えー。どこ？」とゴミ収集車探しに…。

「なんで？」「なんで？」は終わった。

困った時は話をそらす。

(あっこ)

わとと・あおぞら

わととでは、たくさんの講座が、行われています。

その中の一つに、卒園生のおばあちゃまが講師をして下さる、「あーちゃんの裁縫箱」があります。

講座中、子どもたちはフロアでスタッフと一緒に遊びながら待ちます。ママたちは、バッグ、おべんとう袋、ズボン、などをおしゃべりしながら楽しそうに作ります。

そんな姿を初めて遊びに来た2人のママたちがのそき、

「いいなー。子どもがいてこういうのやれる所があるんだあ」

「私、裁縫得意じゃあないけど、子どもとはなれるってというのがいい、やってみようかなあー」と話してくれました。

「そうだね、どうぞ子どもたちは、私たちがみているからね」というと、

「すごい 人の子を見ててくれるっていう所、他はないねえー、ないですよー」

と言ってくれました。

子どもたちは楽しく遊べ、大人もホッとできる空間を、わととでも大切にしていきたいなあと思った1コマでした。

(せり)

友達と見る絵本



きょだいな きょだいな / 長谷川暎子 作 降矢なな 絵

“あったとき あったとき ひろいのっばら どまんなか…”
のくり返しで始まるこの絵本。

きょだいなでんわをかけたなら なんと、地獄のえんま大王にかかってしまって
びっくり。

きょだいなトイレットペーパーが落ちていて、100人の子どもがみんなでおしり
をふく。

読んでいるとケラケラ笑っている子どもたち。

心をくすぐられているんでしょうね。

私も、きょだいなせんぷうきに飛ばされて 空を飛んでみたいな。

(スエ)

NPO法人なのはな（あおぞらキンダーガーデン・わととあおぞら・まほろば）講演会

■ 日程 平成23年2月19日（土曜日） 午後14時～

子どもの発達に共感する時

～支援や実践を考える視点～

2010.5月に出版された「子どもの発達に共感する時」の題名でお話していただきます。いつも子どもに優しい眼差しを送られている先生のお話は、子どもをいとおしく思い大人を優しい気持ちにさせてくれます。ぜひご参加ください。

講師 神戸大学大学院人間発達環境学研究所

定員いっぱいのため、募集は終了しました。ありがとうございました。